

平成 24 年 5 月 31 日
戦 略 企 画 部

平成 24 年度 第 1 回三重県経営戦略会議概要（速報版）

- 1 日 時：平成 24 年 5 月 23 日（水）13:00～15:30
- 2 場 所：都道府県会館 4 階 410 会議室
- 3 出席者：奥田委員、加藤委員、小西委員、白波瀬委員、田中委員、
西村委員、速水委員（座長）、増田委員、宮崎委員、鈴木知事

鈴木知事：本年度は、当面の課題と中長期的な課題を毎回 2 つ議論させて頂きたい。当面の課題では、経営方針等へ反映していくための元となるような議論をして頂きたい。中長期的な課題では、大局的な視点から議論をして頂き、県政の資産にさせて頂きたい。

植田副知事：「三重県行財政改革専門委員会」の委員の拡充について報告。
特に予算編成プロセス、政策推進の仕組みについて、より専門的かつ幅広い見地からご意見をいただくため、神奈川大学人間科学部特任教授 南 学氏、日本大学経済学部教授 沼尾 波子氏の 2 名も新たに加わっていただく。

（● 委員からの意見等）

議題 1 三重県を取り巻く現状と課題

- 人口を増やすにはどういう政策が必要であるかを、国も三重県も具体的に検討していかなければならない。管理された移民政策を真剣に考えなければならぬ。
- 県庁の職員はもっと外へ出るべきだ。現場感覚や当事者意識を持って直接県民と接することで、何をやるべきか、これで良いのか、という議論が出てくるのではないか。
- アンケート調査を実施するにあたっては、調査項目をどう設計するかという段階で、学識経験者を利用してはどうか。

- 今後、三重県がどのような産業に力を入れていくのか、さらに議論を深めて頂きたい。この点に関しては、農林水産業などへの就業意欲を持つ若い世代が別の職業から転職してきた際に、その仕事を生業として独り立ちできるまでの不安定な時期を、社会でどのように支えていくか、という点が一番の課題だと捉えている。
- 自分の仕事が社会にどうつながっているのか、いかに役立っているのか、なかなか想像できないというのが、若者が社会に対して閉塞感を抱き、社会が伸びていかない最大の原因になっているのではないか。
- 県南部では実態調査に基づく冷静な分析のもと、集落をいかに維持していくかというランドデザインを描く必要がある。
- 北勢地域は民間が牽引している重要な地域であり、そうした動きを後押しする政策が必要である。一方、伊賀地域と東紀州地域は、北勢地域と同じ尺度で競争するのではなく、少し違った角度で考えていく必要がある。
- 中小企業の製造業の付加価値率が、全国 42 位と低位にあるのは、県の産業構造上、下請け企業が多いことや、コモデティを作る企業が多く、オンリーワンの製品を作る企業が少ないこと、価格決定権のある企業が少ないことが要因である。その意味で、例えば中小企業において、1社1億円ずつ利益を増やすような政策を実施し、付加価値率を上げることも重要である。
- 『みえ県民意識調査』において、「三重県産の農林水産物を買いたい」と感じている割合が高くなっているが、これは三重県産品を買っていないことの裏返しではないか。もっと三重県産品についての情報を発信していき、買えるようにしていくことが重要である。
- 患者側の立場からみれば、医療の充実の本質というのは「家庭医・プライマリーケアの充実」である。
- 大掛かりな病院をあちこちに建設するのは非効率なため、ドクターヘリなどもうまく活用してコストを抑えつつ、県下全域で病院をどのように再配置していくかということについて、広い視野でデザインし直してみる必要があるのではないか。
- 女性医師にもっとフォーカスを当て、出産などで職を離れた彼女たちの職場復帰を促していくことなども真剣に検討しなければならない。

議題2 今の時代が求める新しい人づくり（県職員像）

- 行政職員には、マネジメント能力だけではなく、マーケティング能力も養って欲しい。
- 行革や人づくりについては、県庁全体で取り組むことが大事であり、担当する部局は、全力をあげてそれ以外の部局に行革意識を浸透させる、問いかけることが重要である。
- 仕事のやり方について、例えば10人で行っていたことを9人で行うことは可能であるが、それを半分の5人でやるためには、業務の優先度、流れなどを根本的に見直すことが求められる。
- 本当は今の社会で何が一番求められているかを知っているのが公務員ではないのか。今の時代に求められている公務員の役割は何かを徹底的に理解しないと、何が政策として必要かが見えない。その一つの手段が現場主義であって、地べたを歩かないと世の中は見えない。
- 問題解決能力も重要だが、創造力が必要ではないか。
- 大事なものは目指す方向やビジョンを共有すること。上司はこれまで以上に問題意識を語ることが重要である。
- いま民間でも注目しているのがチーム力。3～5人程度のチームでプロジェクトを成功させる事例を積み重ねていく。県の職員と市の職員と地元の民間の人と一緒にチームで褒められると、そこからPR効果も生まれ、自分達もやろうかという声も出てくると思う。
- 感性豊かな県職員を育てることが重要であると考えている。そのような職員は必ずおり、どう伸ばしていくか、突出した職員をどう生かしていくか、上司がこれらの職員をどう評価するかが人材育成においては重要である。

「三重県経営戦略会議」委員名簿

平成24年4月1日現在

氏名 (敬称略 50音順)	所属・役職
おくだ ひろし 奥田 碩	日本経済団体連合会 名誉会長
かとう ひでき 加藤 秀樹	構想日本 代表
こにし さちお 小西 砂千夫	関西学院大学大学院経済学研究科・人間福祉学部 教授
しらはせ さわこ 白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
たなか りさ 田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役編集室長
つや のりこ 津谷 典子	慶應義塾大学経済学部 教授
にしむら のりひろ 西村 訓弘	三重大学大学院医学系研究科 教授 (社会連携担当・学長補佐)
はやみ とおる 速水 亨	速水林業 代表
ますだ ひろや 増田 寛也	前岩手県知事 株式会社野村総合研究所 顧問
みやざき よしゆき 宮崎 由至	株式会社宮崎本店 代表取締役社長